

多摩デポ通信 第58号

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2021年9月22日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一・三一・一八

●HP / <https://www.tamadepo.org/>

●E-Mail depo_tama@yahoo.co.jp

コロナ下の今後の活動

緊急事態が続いています。多摩地域の図書館は開館し貸出することは行えていませんが、館内での滞在、お話し会等の行事、講演会、職員への出前等は抑制された状態が続いています。動きづらいつつ、私たちのこの間の研究や活動等は2面以降に書きました。今後、ウィズコロナ下で提案する予定をお知らせします。

Zoomで対話する場を

インターネットを使い大勢が顔を見せあい対話する

Zoomというアプリの使用が広まっています。リアルに集まる会を提案しにくい(会場確保も難しい)ので、条件のない方には申し訳ありませんが、Zoomの会を意識的に開くことを考えています。通信環境のあるパソコンやスマホを持った方なら自宅からマスクを外して参加できます。

図書館で働く皆さん

アクセスしてください

まず仕事に直結し、職員が興味や疑問を出しあえるような講座を多摩地域の図書館員限定で開催すること

を考えています。

収集や保存、除籍の判断等々、他館ではどんなやり方をしているか。検索の技法……入力の方で(所蔵ナシ)になってしまおうのはなぜか、基礎になる書誌データや各種MARCのフォーマリなど。勤務時間外に開催しますが、参加したら持ちかえられることの多いものにしたい。

「多摩デポ実践講座」

年内に始めます

初回の「Zoomひろば」の日時を決めURLを公開し、まずは参加してもらおう。多摩の元図書館員や現役のベテラン、協力予定の(株)カーリルのスタッフが、自分たちでとりあえず用意した講座内容を説明する。質疑の後に分かれ、興味ある者がメンバーになって、次回以降の都合のいい日時を

設定しテーマ別「実践講座」を始めていく。

Zoom会議はビデオのデータを残すこともできるので、(メンバー全員の了解が得られれば)記録を残し、後から視聴することも考えられます。

図書館長さん、若い職員や非常勤の方の参加を促してくれませんか。ベテラン職員の方、後輩を誘い、一緒に助言者や講師になってくれませんか。ご意見をお寄せください。

□ 今号の内容 □

- ・ コロナ下の今後の活動
- ・ Zoomによる意見交換会報告
- ・ (株)カーリルとの共同研究
定例会報告
- ・ TAMALAS 一括処理システムの
活用の背景 笹川美季
- ・ 新理事の所信表明 保坂一房
中川恭一
- ・ 津野海太郎さん、引き続き顧問に
- ・ 会の現勢

Zoomによる

初めての意見交換会

17名の会員が参加

一二年続けて総会のリアルな招集の断念を決めた時、同時に、会員の生の声を出し合あえる機会を持つことも決めました。

6月8日にZoom接続お話し会を行い、本番は6月13日(日)午後2時に開始。下関や新潟からの参加者も含め、予定を超えて4時半過ぎまで話題は尽きませんでした。

会員へ直接に総会報告をすることができたし、ISBNの機械的付与の検証の協力を呼びかけたところ、「面白そう!」と加わってくれた会員もありました。やはり顔を見て声を聞いて話し合える場は何物にも代えがたい。これからも工夫して企画しますので、ご参加ください。

(株)カーリルとの 共同研究 定例会報告

新型コロナウイルスが収束しない中、私たちはZoomを使って研究会を続けていきます。今回は二つのことを報告します。

**蔵書データにISBNを
機械的に付与し、その
精度や有効性を検証**

JR国立駅前にある「たましん地域文化財団歴史資料室」は、多摩の広域的な歴史資料(図書、雑誌、地図、絵葉書、チラシ、タウン紙、写真等)を収集、保存、公開している大変貴重な施設です。蔵書目録はネット公開しています。うち図書は約2万5千冊。ただしこの目録にはこれまでISBN(国際標準図書番号)が入力されていません。

今回、(株)カーリルの手

で、機械的にISBNを付与してみました。蔵書は、市販図書でないものや古い図書も多く、自動付与された件数は約1千件でした。この結果を研究会参加者と協力者で振り分け、国立国会図書館の蔵書データ等と照合し、正しく付与されたかをチェックしてきました。かなりの率で適切な付与ができましたが、誤付与になったものもあり、なぜかの検証をしています。

一方でISBNが付与されるはずにも拘わらず、機械的には付与されなかったものもあり、どうして付与されなかったかも検証しています。条件が揃わないデータには自動付与がされないことで確実性を高めようとすると結果なのですが、付与されなかった原因の検証も、自動付与を考える上で重要です。

得られたデータは協力し

てくれた「歴史資料室」にお渡ししました。

この作業はISBNの自動付与の精度を検証し高めることが目的でした。

多摩地域の各図書館の目録には、ISBNが付いている図書でありながら、ISBNがデータ入力されていない資料群があります。そのような資料に適切に自動付与できれば、TAMALASで検索できる対象を増やすことができます。

TAMALAS一括処理 システムを活用した大量 の蔵書の点検

この間のもう一つの課題が、府中市立中央図書館が昨年末以来取り組んだ書庫の57万冊余の蔵書調査でした。研究会でも作業の動向を追ってきました。

府中市では自動出納書庫に収蔵した資料の見直しと

圧縮が課題となり、除籍作業の基礎情報を得るため、

TAMALAS一括処理システムを使い、多摩地域内の重複所蔵状況、および都立、国立国会図書館の所蔵を点検しました。このシステムを開発し提供している多摩デポと（株）カーリルにとつても、これほど大量の蔵書を連続してシステムにかけるのは初めての経験でした。多摩デポは理事長が館長や担当者を訪問して意向や予定を聞き、カーリルとも打ち合わせしてもらって進めました。

府中市がどういう状況の中で書庫点検を行おうとしたのか。どうこのシステムを利用したか。作業の考え方やさらに今後の除籍の基準作りなど、多摩の図書館現場で共有されることは、蔵書保存、管理の大きなヒントにもなるのではないでしょう。

府中市の担当者の方に書いていただきました。

TAMALAS一括処理システムの活用背景

府中市中央図書館

笹川美季

府中市立中央図書館の閉架書庫（自動出納書庫）の保管状況がひっ迫してきている。今後の入庫可能予想冊数は約16万冊で、毎年2万冊の増加を見込むと8年後には満杯となる。特にサイズ別コンテナを使うためサイズの割り振りが難しく、調整が必要になってきている。

現PFI契約が満期に近づき、現在、次期契約のための協議が進んでいるが、できるだけ自動出納書庫内の蔵書の整理を行い、事業開始までに蔵書の削減を図りたいと思っている。特に令和4年度からの次期PFI

I事業にともない施設の大規模改修も行われることもあり、契約期間である15年間は閉架書庫の容量を持たせたいと思っている。

以前に大掛かりな蔵書の除籍（児童書と地域資料を除く）を行ったが、本市の保存基準として府中市で最後の一冊は除籍しないことになっていることもあり、当時は開架と書庫に複本がある資料のみの処理となった。

ここで、保存基準及び自動出納書庫への入庫基準を検討し、本場に必要なものをストックするため、部門別の保存基準を設け、ガイドブックや実用書の一部については永年保存ではなく、最後の一冊でも除籍対象とした。除籍の判断基準として貸出回数を考慮したり、複本であれば本の状態が良いものを残すことを考えているが、自動出納書庫の場

合、出庫に時間がかかり、一冊一冊を取り出して検討することが難しいという大きな課題がある。

そのため、除籍（地域資料・雑誌を除く）等の手順を次のように試行中である。

○自動出納書庫内の資料（地域資料を除く図書資料）を分類ごとに抽出

○Excelデータの作成
←
←
○複本を対象として現物を見て除籍の判断をする

なお、作業開始時点の自動出納書庫内の対象資料は約52万7千5百冊である。

今回、この作業を行う上で多摩地域の所蔵状況を把握するために、TAMALAS一括処理システムを使って大量の資料のチェックを行った。

大量の資料データをアップロードしたため、当初は、処理スピードが遅く懸念をしていたが、カーリルとのやり取りの中でその点も解消し、多摩地域の所蔵状況を知るための大変参考になる基礎資料を得ることができた（自動出納書庫内の対象資料約52万7千5百冊をすべて処理した）。

ファイル数は多かったが、図書館で抽出したデータをTAMALASにアップロードしておけば、ログアウトした状態でも次の日に結果が出ていたため、作業の負担はほとんどなく、使い勝手もよかった。また、検索結果に都立図書館と国立国会図書館の所蔵状況があるのは助かった。

このような取り組みを行っているため、今後、除籍処理が一時的に多くなる。当館の場合、バーコード処理などの除籍作業は、事業

者（TRC）が行うことになっていないため、その処理件数を説明しなければならぬ（業務量を数値化しないと依頼できない）が、その数字の把握が難しく課題となっている。今後は、除籍資料を都立図書館や国立国会図書館に寄贈することも考えており、TAMALASの結果は、大変有用に活用できると思う。

先の部門ごとの除籍基準（現場における除籍検討メモ）の作成は、現在も進行中である。除籍検討作業は直営の職員（中央図書館は28名）が分担して行うが、作業の際はベテラン職員と新人職員を混ぜ、ノウハウの蓄積を行っている。また、地道に行い、他館の経験豊富な司書などの意見も求めるようにしている。除籍の判断スキルを培うことが重要で、そこに時間をかけたいと思っている。

館長協議会の除籍担当者会議の出席については、それぞれの図書館で除籍に対する考え方や対応が違うので、それぞれの図書館の実態や方法を知ることがたいへん勉強になった。



新理事の所信表明

理事に就任して

保坂一房

（公財）たましん地域文化財団で、季刊誌『多摩のあゆみ』の編集や、歴史資料室の運営管理に携わっています。

当財団の活動に関しては、多摩デポの第一回講座でお話して、ブックレットNo.2『地域資料の収集と保存』

たましん地域文化財団歴史資料室の場合』として2009年9月に発行していただきました。

現在は（株）カーリルとの共同研究に参加、当財団の蔵書データを提供して多摩デポ統合検索システムの実現を目指しています。

近年、当財団が力を入れているのは、ネットによる情報発信です。『多摩のあゆみ』のバックナンバーや、歴史資料室が所蔵する絵図・地図、チラシ、絵葉書などを順次デジタルアーカイブ化して、公開しています。

1975（昭和50）年創刊の『多摩のあゆみ』は、第一〇〇号（2000年11月発行）以前はほとんど在庫欠となっています。デジタルアーカイブの公開は、多くの方々へ本誌を提供するためのものです。歴史資料室が収集してきた資料群

の公開も、利用を促進する
ものです。

昨年来のコロナ禍により、
歴史資料室は二度臨時休館
せざるを得ませんでした。
この間、デジタルアーカイ
ブへのアクセス数は、大幅
に増えていきました。今後、
ネットによる情報発信は、
ますます多様な活用方法が
求められるでしょう。

多摩デポの活動に微力を
尽くす所存ですので、今後
ともよろしくお願い申し上
げます。

(公財)たましん地域文化
財団歴史資料室室長

新理事の抱負

中川 恭一

とうとうここまで来たん
だ。こんなことになるんだ
ったら、もっと現役時代に
いろんな問題を片づけてお
くべきだった。と、後悔し
ても後の祭り。では、これ

からやれることに目を向け
なくちゃ。

除籍資料担当者会を3年
引つ張ってきて見えてきた
のは、各自自治体職員の悩み
が、先達からのノウハウが
自分たち、そして後輩たち
にうまく伝授できていない
ことでした。都立図書館蔵
書5万冊を多摩地区自治体
への分担保存で決着をつけ
た時の職員の熱気はどこへ
やら。「保存シール」って
何？と聞かれる隔世の感。
それでも、保存せよと言わ
れてきた資料のうち、実用
書は除籍したいと。自分た
ちが築いてきた図書館蔵書
を守りたい、だから溢れて
いる書庫蔵書を減らしたい。
大所高所から見られるって
いうことは素晴らしい。

どれを除籍して、どれを
残すのか、その判断基準は
各自自治体で微妙に違う。そ
の任に当たるのは誰なのか。
その人がその人の判断で全

部の除籍資料を選択するの
は不可能だけど、最後の判
断だけしてもらえるように
準備しておくことはできる
でしょう。そのノウハウを
マニュアル化できればいい
んだ。蔵書を分解してまた
組み立てればいいんだ。

自治体内で最後の1冊。
除籍理由はすでに明確にな
っている。でも、TAM
LASで見たら、もう1自
治体しか残っていない。合
わせて2冊。その最後の判
断を、多摩地区の図書館共
有のルールとして成文化で
できればいいんだ。

まずは、職員向け多摩デ
ポ実践講座を立ち上げます。
若い職員をサポートして、
多摩デポ会員の増加につな
げたいと思います。

前西東京市図書館長

津野海太郎さん

引き続き顧問に

顧問任期は理事会と連動
している。総会で新理事が
選任(大半が重任)後の理
事会で、津野海太郎さんに
顧問をお願いしたいとなっ
た。座間理事長が打診し、
快く引き受けていただけだ。
2011年度からの継続と
なる。

図書館の共同保存の実現
を目指すNPO(法人化の
前身)の準備を2006年
に始めた時、津野さんにも
理事になってもらった。津
野さんは主に1970年代、
80年代に晶文社で編集者と
して多くのさん新企画の
本を作られ、90年代末には
『本とコンピュータ』誌の
創刊編集長をされた。道を
歩きながら本を読む人、(中
央線沿線の区立)図書館の
常連利用者らしいと言われ
ていた。理事を頼んだ時は



和光大学表現学部教授をさ
れていた。お願いにしに大学
の図書館長室を訪ねた時、
「分かった、理事になって
あげるよ。私をどんなに利
用してもいい。こういうこ
とは3年で実現するんだ
よ」と言われたことが忘れ
られない。

最初の会で団体名が議題
になったが、私たちからい
い案を出せずになかなか決
まらない。議論を津野さん
は聞いておられたが、「新分
野の事業だからストレート
なのがいい、『共同保存図書
館』を先に出して、ナカグ
ロで『多摩』とつなぐのは
どうか？」皆は黙った。「そ
れで略称は、例えば『多摩
デポ』かな。すごくいい。
私は、名編集者の切れ味に
ふれた気がした。

元をたどれば、2001
年、都立図書館の縮小再編
計画が起き、都立多摩図書
館の約14万冊の除籍が突然

発表された。区市町村の図
書館員や利用者が必死の反
対運動をした。津野さんは
開催した全都的な集会で講
演してくれている。

私個人は、多摩で運動が
続いた根っこには、この時
の津野さんの言葉が大きか
ったように思う。講演終了
後、会場に掲げた「捨てる
な！」の横断幕に、「区市町
村図書館の君たちだつて本
を捨ててるじゃないか」と
静かに言われた。単純化す
れば都立は蔵書を捨てるべ
きでないが、区市町村立は
捨ててもかまわないのか？
都立の保存の責任を言うだ
けでなく、自分らも含めた
図書館界全体で共有する蔵
書維持の方策を考えないと
いけないのではないか。

3年どころか、何倍の時
間が経つたろう。津野さん
でブックレットは作ったが、
（利用する）ような運動は
全然やれていない。多摩デ

ポは図書館界では多少は注
目され、論文などでも触れ
られるようになったが、リ
アルな保存図書館を作れて
いない。大学を退職された
津野さんはこの間、ましま
った本を何冊も書く作家に
なった。

今回も「役に立つことが
あればいつでもどうぞ」と
理事長に言われたという。
有難い。しかし私たちには
津野さんを引っ張り出す勢
いある企画を考える宿題が
ある。
（事務局長 堀）

郵便局での送金の際、現金
だと振込み手数料に追加料
金がかかるようになります

来年1月17日からは郵便
局の払込みの際に料金が追
加されるという情報です。

料金受取人負担の払込取
扱票（赤字で印刷されてい
る用紙）の場合、払込み料

金は現在でも受取人（多摩
デポ）負担ですが、現金で
の支払いでは、さらに払込
人に追加料金が110円か
かるようになります。この
用紙でうちよ通帳または
キャッシュカードで口座か
らの支払いの場合は、追加
料金はかかりません。（払込
手数料も受取人負担にな
ります）

会費がまだの方は1月17
日前に入金いただくと追
加料金がかりません。お
早めにお願います！

★会の現勢

21年9月1日現在

●正会員

（個人会員81名）

（団体会員2団体）

●賛助会員

（個人36名）

（団体1団体）

●年会費

正会員 五千円

賛助会員 一口二千円